

「第5章 地域福祉活動計画 進捗状況確認シート」の記載内容に関する委員からの質問等一覧

追加資料2

番号	事業名	委員からの質問等	回答
1-1~1-3 2-1~2-3-2	地域福祉を担う人づくり 支え合いの輪が広がる地域づくり	現状値より目標値が低いのはなぜか	目標値が低い方が、地域福祉が推進しているという設定値のため。
1-2-3	地域ふれあいサロンの充実	カシオシステムとは？	カシオ計算機（株）が提供している地域資源情報サイト「Ayamu」を導入し、関係者による情報共有や社会資源の登録を行い、情報提供を行うツールとして活用を検討しています。
1-2-3	同上	サロン開設にあたり人数を一定数集めないといけないと聞いている。過疎地域、集まれる集会所や公民館が近くにないような地域では開設されても徒歩以外の移動手段がないために参加できない人が発生する。移動販売や移動図書館などのように地域を巡回して開催するアウトリーチ型のサロンを検討するのはどうか	巡回型サロンの実施については、ニーズを把握しながら検討して参ります。
1-2-6	児童生徒への福祉活動費助成事業	各校でのすばらしい取組事例の紹介や共有などの機会はあるのか	福祉活動費助成事業実績報告につきましては、各校の取組の内容を社会福祉協議会のホームページで紹介しています。さらに事例の紹介が出来る機会を検討してまいります。
1-2-6	同上	各校一律の金額ではなく、生徒数に応じて分配する事も検討しても良いか	各学校の意向を踏まえ、必要であれば今後検討を調整いたします。
1-2-6	同上	掲げられている事業内容が「思いやりの心を育む」等で少し抽象的。各校でどのような事業内容が展開されたのか、その概要の把握はできているのか	各学校の教育方針に影響しないよう広い意味合いでの事業内容としています。各学校の福祉活動費助成事業実績報告につきましては、各校の取組内容を社会福祉協議会のホームページで紹介しています。
1-2-8	災害ボランティア養成講座	能登半島地震において、下野市から職員派遣をしたと伺っている。現地が必要とされた内容や現地で感じられた事が伝わる機会があると、災害への意識啓発になるように思う。【現時点での社協の対応について】	募金については1月5日より受付しており、栃木県社会福祉協議会と連携を取りながら、派遣要請により現地支援を検討いたします。また今後の災害ボランティア養成講座では現地で活動された方を招いての実施を検討しております。

番号	事業名	委員からの質問等	回答
3-1-1	居宅介護支援事業	精神疾患・認知症・8050問題・障害福祉サービスを利用してきた人が65歳を迎えるなど様々な課題に対応力をつけるための研修を障害福祉の相談支援専門員と共催するのはどうか	下野市など研修実施機関と調整してまいります。
3-1-2	通所介護事業	利用者数が減少傾向にあるとのことで、民間の事業所との差別化はどこで図ることができるのか	セーフティーネットの役割を担いながら、運営に努めてまいります。
3-1-3	就労継続支援B型事業	民生委員の研修で見学に行った際、利用者が黙々と作業に取り組んでいる姿が印象的でいろいろな意味でよい事業だと感じた。担当者の仕分け点検作業が大変そうだった。ボランティア活用等をより進めていくとよいのでは	ボランティアの活用につきましては、職員の負担軽減に効果があるとともに、利用者にとっても地域の皆様との交流に繋がり大変有意義なことであるため、今後検討してまいります。
3-1-3	同上	利用者の高齢化、重度化の問題があるのであれば生活介護指導を取り入れ、B型として働く人と居場所を求める人との区別を図り、通う利用者の目的を明確にするのはどうか	実施の形態や方法等について、慎重に検討してまいります。
3-1-5	ふれあいサロンゆうゆう事業	サロンに通う対象者に一定のルールを作成しなければならなくなっているのは、対象者が介護の必要な、むしろデイサービスを利用すべき人が増えているのか何が理由か	一般介護予防事業であるので市高齢福祉課と調整の上、個々の状態に合わせて最適なサービスを提供できるように支援いたします。
3-3-2	各種相談事業の実施	キャンセル待ちになるほどのニーズがあるとのこと。相談の多い内容を市民向けの講座や講演会のテーマとして企画してはどうか	いただいたご意見を参考にし、今後の事業展開に努めてまいります。
3-3-3	各種相談支援に実施	心配ごと相談の利用状況や主な相談内容について伺いたい。	令和4年度相談件数は36件。主な相談内容については、家族に関することが最も多く、次にご近所問題、住宅問題に関する相談があった。